

	一般的名称	報告の概要
70	アセトアミノフェン含有一般用医薬品	出生前のアセトアミノフェンの頻繁な暴露は、アトピーのない小児で重大な喘息のリスクファクターであることが示唆された。
71	塩酸バンコマイシン	微生物学研究所から収集したMRSA検体120株のうち、22株にVancomycin-intermediate Staphylococcus aureus(VISA)が検出された。
72	ドンペリドン	心停止の既往のある患者にドンペリドンとハロペリドールを投与した場合、心停止のリスクが高くなることが示唆された。
73	アセトアミノフェン含有一般用医薬品	非麻薬性鎮痛薬を常用している男性は、高血圧になるリスクが高いことが示唆された。
74	リン酸オセルタミビル	2005-2006年シーズンに医療機関においてインフルエンザと診断された成人67例の検体を調査したところ、1検体にノイラミニダーゼ阻害剤耐性ウイルスが検出された。
75	プレドニゾン	真菌感染前の低用量のプレドニゾン投与又は真菌感染後の高用量のプレドニゾン投与は、真菌感染症による死亡原因と関連することが示唆された。
76	アセトアミノフェン	非麻薬性鎮痛薬を常用している男性は、高血圧になるリスクが高いことが示唆された。
77	リファンピシン	健康被検者11例を対象とした無作為化クロスオーバー試験において、リファンピシンがアトルバスタチンとその代謝物の血漿中濃度を上昇させることが示唆された。
78	ホリナートカルシウム	局所進行食道扁平上皮がん患者172例を対象とした化学療法(フルオロウラシル/ロイコボリン/エトポシド/シスプラチン)+放射線併用療法の有用性を検討する非盲検ランダム化臨床試験において、好中球減少性感染、食道-胃吻合部位漏出、肺炎、左主気管支の損傷、心不全、敗血症、胃腸出血、再生不良性貧血による治療関連死14例が報告された。
79	ワルファリンカリウム	2000-2002年までに3病院で脳出血と診断された患者593例を対象としたレトロスペクティブ研究において、ワルファリン投与が非投与に比べ有意に致死転帰をたどる割合が高かった。
80	アセトアミノフェン	出生前のアセトアミノフェンの頻繁な暴露は、アトピーのない小児で重大な喘息のリスクファクターであることが示唆された。
81	メトトレキサート	新たにメトトレキサートを処方された若年性特発性関節炎患者220例に対する2施設の後ろ向きコホート研究において、投与開始6ヶ月目における高用量群(>0.5mg/kg/dose)および、投与開始6-12ヶ月間において女性の高投与量群は低用量群(≤0.5mg/kg/dose)に比べて肝機能検査値が高かった。
82	ジクロフェナクナトリウム	NSAIDsまたはアセトアミノフェンの処方を受けた患者群において、ジクロフェナクも使用している場合、急性心筋梗塞や消化管出血の発生率が高まることが示唆された。
83	ヒトインスリン(遺伝子組換え)	新規に多発性骨髄腫を発症した患者においてケースコントロール試験を行ったところ、インスリンの使用のある患者では、多発性骨髄腫の発生率が高まることが示唆された。
84	アセトアミノフェン	非麻薬性鎮痛薬を常用している男性は、高血圧になるリスクが高いことが示唆された。
85	オキサリプラチン	結腸直腸癌の肝転移切除症例90例を対象として、術前化学療法としてフルオロウラシル/ロイコボリン/オキサリプラチン投与群とその他化学療法投与群を比較したところ、類洞閉塞あるいは類洞拡張の肉眼的所見が前群で有意に多く認められた。
86	ヘパリンナトリウム	一医療機関において2003年11月から2006年6月までに認められた大動脈手術後のHIT合併症例12例のうち、計6例にヘパリンの術前使用歴や術後長期使用歴があった。
87	メシル酸イマチニブ	1988年7月から2006年7月までに一医療機関において臨床試験でイマチニブの投与を受けた血液がん患者1276例のカルテレビューを行なったところ、イマチニブ投与中にうっ血性心不全が22例に発現し、うち8例はイマチニブの関連が考えられた。